

# 教育センターだより



## 「信頼関係」を基盤とした学校・園

— 「南砺市こどもの権利条例」に込めた願いの実現に向けて —

南砺市教育委員会 教育長 松本 謙一

「A が正しいと思う人、手を挙げて」という先生の投げかけに対して、「はい」と子どもが手を挙げたら、次の瞬間、「はい、〇〇さん、お話して」と先生が発言を促す。こんな授業の光景を当たり前のように見かける。これの何が問題なのか？それは、発問の意味をきちんと捉え、自分はAがよいと思い、素直に手を挙げた子どもに対して、「手を挙げたのだから、その理由を言いなさい」と、それがあたかも当たり前の先生の対応であるかのように指名し、無理やり発言させようとしている点にある。

子どもからすると、「先生なんで、私に当てたの？ちょっと待ってよ！発言するつもりじゃなかったのに」と、先生の対応に疑問を抱く場合も多い。なぜなら、「よいと思う人、手を挙げて」と言われて、『立場の明確化』のために手を挙げただけで、「考えを言いましょ」と促されて、その『了解』の意味で、手を挙げたわけではないからである。このような対応では結果的に、先生は子どもを欺いていることになる。

このような対応を繰り返していると、子どもは「それなら、手を挙げないぞ。特に挙手が少ない時に手を挙げたら、確実に指名される」という先生の“やり方”についての学びをしてしまい、創造的な考えや少数意見が出にくくなってしまう。結果的に、安心して立場さえ表現できない教室になってしまうのである。

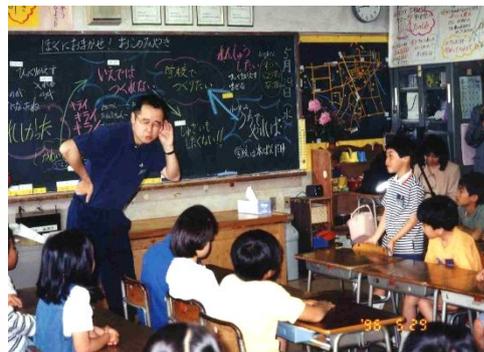
それならどうしたらよいか。「A だ」と思う人、手を挙げて。(人数を確認した後)誰か理由をお話してくれる人いる？(ここで、挙手して「了解」という意思を示している子どもを確認して)はい、どうぞ」というきめ細かい対応が求められるのである。挙手がたった一人であっても、「お話してくれるかな？(首を横に振る)できないの？いいんだよ。でも、そう思ったのね。分かったよ。みんなは、どうして△△さんは〇〇だと思ったのだと思う？」と、学級みんなに問い、みんなで考えていけばよいのである。

信頼して挙手できる。理由が言えなくても、自分の立場は認めてもらえる。そんな対応が、まず先生に求められている。そういった対応を続けていくことで、学級全体の子どもたちの創造的な雰囲気も、必ず高まっていく。

では、子どもに対する先生の権利はどこまで許されているのだろうか。手を挙げていない子どもに当てて、意見を求めてはいけないのか。—もちろん、よい。先生の権利だ。意図的指名という方法がある。でも、意図的指名には、その背景に先生と子どもとの信頼関係が欠かせないのである。

小学校1年生の教室で、今まで一度も意図的指名をしていない状況を想定してみよう。手を挙げていない子どもに、初めて意図的指名を行い、発言を求めると、必ずその子は「私、手を挙げていない」と言ってくる。その時の先生の、次のような対応が鍵となる。「そうだよ。今、手を挙げていなかったよね。でも〇〇さんならきつと言えと思ったから、当てたんだよ。立って話してごらん」と、促すのだ。

また、なかなか話すことができないこの子に対して、周りの子どもが待ちきれなくなったらどうするか。「あら、何をしゃべってるの！急かしてどうする！今、手も挙げていなかった〇〇さんは話したくて立っているのではないんだ。先生が頼んだから（仕方なく）、一生懸命考えているんだよ」と諭す。「静かにして、みんなも考えてごらん。みんななら、どんなふうに話すの」と。



真剣に話し合う子どもたちと耳を傾ける先生

このようにして、意図的に当てても話すことができる子どもをどんどん増やしていくことが、学級全体の高まりにつながる。「君は言えないだろう。よそ見していたもん」と、どれだけ叱っても、子どもが尻込みするだけで何の価値もない。

先生が、子どもの気持ちをないがしろにするような対応をしたとしても、子どもはなかなか不満を言えない。相手が先生であるからだ。だから、一言一言を、相手が子どもだから言えることなのか、相手が同僚や上司であっても言えることなのかを、先生は考えて発言しなければいけない。相手が同僚であっても同じようにすると言える対応を、教室の中で大事にしてほしいのだ。

また、こんな例もある。「さあ、みんな。今日からの体育では、何をしよう？」という先生の問いかけに、「バスケットかな？」などと、子どもは夢を広げていくのに、先生の次の一言は、「みんな一生懸命考えているね。実は、次にやるのは『ダンス』だ」である。—既に決めてしまっているのなら聞かなければよい。子どもに「聞く」ということは、子どもの意思を尊重するという前提が必要である。実は最初から決めていたんだけど・・・などと言うのは、大変子どもに対して失礼な対応だ。

次のような例もある。「さあ、昨日こういう問題が出て終わったけど、それについて発表してください」と言って当てると、子どもが、今思っていることを発言した。それなのに、「いや違う違う、そうじゃない。昨日ノートに書いたこと、赤線の引いてあるところを読んで」と、先生は自分の想定した発言、しかも昨日の思いを言うこと求めている。まったく、目の前の子どもの存在を無視した、自分勝手な先生としか言いようがない。

先生は子どもを指名することはできる。だけど、話す内容までを、先生が規制することはできない。それは子どもの意思に任せられている。先生ができることといえば、「そうか。〇〇さんよく考えたね」と発言を受け止めることぐらいだ。頭の中では「今日は一番目の指名の段階で、もう予定した流れから外れてしまったな・・・」と思いつつも、板書することが大切だ。唯一できるぎりぎりの対応は「うん、だけど昨日違ったこと書いていたね。昨日から考え方が変わったの？」と、問い直すくらいだ。

「先生」と「子ども」である前に、互いが同じ一人の尊重される人間なのだとすることを忘れてはいけない。『未完成な人間』と『経験が少ないから大人よりもっと未完成な人間』として、子どもとの関係を見つめ直そう。これが、子どもと向き合う上での、全ての原点であろう。

「南砺市こどもの権利条例」前文には、「こどもは、生まれながらにして人格を持つ一人の人間として尊重されること」「大人は、こどもの思いを尊重し、こどもの意見に耳を傾け、こどもに対して一方的な考えを押し付けることなく、寄り添うこと」が示されている。この条例が施行されている南砺市として、先生はどう子どもと向き合うことが大切なのか。「こども」を「人間」として尊重した対応をすることが、全ての教育の前提となる信頼関係の構築につながる。南砺市の園も学校もみんな、このことを大切に教育活動を進めてほしいと願っている。

※今年度の研修会の詳細については、HPでご覧ください。



## ●市教育センター研修会

### 授業力向上研修会(ステップアップ研修) (全11回)

R7年度から、ステップアップ研修のより主体的な受講を目指し、「授業公開者が希望する市内教職員に、指導助言を依頼する」という実施方法に変更しました。また、事前研修からご指導いただく方法は、継続しました。今年度の実施方法について、以下のようなご意見をいただきました。

- ・自分が教えていただきたい観点に沿った先生に助言をお願いできてよかった。(授業者)
- ・授業展開に悩んでいるところを一緒に考えていただけて、とても勉強になった。(授業者)
- ・授業づくりの段階での悩み等を理解しておく方が、助言に生かすことができる。(指導助言者)
- ・授業者が学びたいことを学びたい人から学べるので、主体的に研修を進められる。(指導助言者)
- ・自分にとって付けたい力を育むことにつながる。(参観者)
- ・お世話になった先生だと、安心して指導案検討ができ、自分の考えも反映されながらよりよいものができるのではないかと思います。(参観者)

アンケートでは、95%の方から、R7年度の研修実施方法の継続に肯定的な回答をいただきました。一方で、次年度の改善点として、指導助言者への依頼方法や、事後研修会のもち方等についてのご意見もいただきました。次年度は、今年度の方法を継続しながら、いただいたご意見を参考に、よりよい研修となるよう実施していきます。



### 生成AI研修 (全3回)

現在、生成AI研修を実施中です。「**生成AIを知ろう**」「**生成AIの利用による学習の質の分岐点**」「**生成AI活用に必要なデジタル・シティズンシップ**」の全3回の動画を視聴する研修です。新年度に向けて、今年度中に実施し、終了した学校は、報告書を提出してください。

●動画、資料⇒¥¥nsv-fs01¥Share¥0.小学校共通¥10教育センター¥★ICT活用★¥生成AI研修動画資料

## ●NYT道場(南砺ヤングティーチャー)



第1回 ビーチボール大会



第2回 ふるさと学習

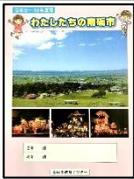
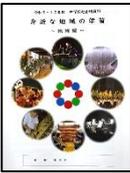


第3回 先輩に学ぶ研修会



市内の園、小・中・義務教育学校の1～6年次の先生を対象として開催し、今年度は62名の登録があり、のべ114名が参加しました。校種を超えた仲間づくりと自己研鑽の場として、来年度も事業を継続していきます。

## ●調査研究委員会

事業名	活動内容	成果や課題
社会科資料 (小学校)	・「わたしたちの南砺市」 改訂、印刷 (令和8～10年使用) 	・現行の教科書に合わせ、構成を変更した。 ・資料やグラフを最新のものに変更した。
社会科資料 (中学校)	・「身近な地域の学習 －地理編－」 改訂、印刷 (令和8～10年度使用) 	・資料やグラフを最新のものに変更した。 ・縮尺等の問題に取り組めるページを、2次元コードで新たに設けた。
体力づくり (2/3年目)	・体力・運動能力調査の結果の分析 ・各学校の取組等についての情報交換 ・市全体で取り組む課題の共有	・今年度の体力・運動能力調査のまとめを作成し、課題を把握した。 ・各校での取組について集約した。
ICT推進	・情報活用能力の指標に沿った児童生徒のスキル調査の実施 ・デジタル・シティズンシップ教育の実践	・スキル調査の実施により、市内児童生徒の現状を把握した。 ・各校でデジタル・シティズンシップ教育の実践を行い、内容を集約、共有した。

## ●令和8年4月 市教育センター研修会のお知らせ

- 4月3日(金) 13:00 **南砺市教育講演会** 対象：全教職員【悉皆】・保認希望者(オンライン)  
講師：上越教育大学 いじめ・生徒指導研究研修センター長  
教授 高橋 知己 先生
- 4月21日(火) 15:00 **授業力向上研修会** 対象：研究主任【悉皆】、教務主任、学年主任等、希望者  
講師：南砺市教育委員会 教育長 松本 謙一 先生
- 4月22日(水) 10:30 **学校図書館研修会** 対象：学校図書館担当教諭・学校司書助手(オンライン)
- 4月27日(月) 16:00 **生徒指導研修会** 対象：全教職員【悉皆】(オンライン)  
講師：富山県警察本部 刑事企画課 指導係
- 4月28日(火) 15:30 **ICT活用研修会** 対象：市初任勤務教職員・希望者  
講師：南砺市教育センター ITCE 林 秀次 先生

### ○授業力向上研修会(教師力向上研修会)

講師：南砺市教育委員会 教育長 松本 謙一 先生

新シリーズ

子供主体の活動を支える～2年生活科「わたしは小さなおひゃくしょうさん」の実践から～

- ① 5月20日(水) 井波小学校
  - ② 6月23日(火) 福光南部小学校
  - ③ 9月3日(木) 福光東部小学校
  - ④ 11月17日(火) 福野小学校
- 15:00～16:30

対象：砺波地区幼・保・園・小・中・義教職員(若手教員、研究主任、学年主任等)

砺波地区3市交流研修と幼保小連携研修を兼ねて行います。ぜひご参加ください。

今年度も、市教育センターの諸活動にご理解とご協力をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。これからも、先生方のご要望を反映し、実りある活動を進めていくことができるよう努めてまいります。今後ともさらなるご理解とご協力をお願いいたします。